

会 議 録	
会 議 名	令和 7 年度第 2 回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和 7 年 11 月 14 日（金）10：10～12：00、13：00～14：15
開催場所	学校視察（城乾小学校、東中学校）、丸亀市役所 3 階 303 会議室
出席者	<div>出席委員</div> <p>松永恭二（市長）、末澤康彦（教育長）、井下由美、久保博紀、立石陽志、松岡舟（以上敬称略）</p> <div>事務局</div> <p>市長公室長 栗山佳子 市長公室政策課 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子</p> <div>市出席者</div> <p>教育部総務課 課長 土井節子、副課長 後藤幸功 学校教育課 課長 岩井俊明、副課長 今井達也、鎌谷敦之 城乾小学校 横田由香（コーディネーター）、馬場敬子（支援員） 東中学校 校長 大西光宏、教頭 岡田美江、杉田絵夏（支援員）</p>
議 題	<p>(1) 日本語教室の取組状況について</p> <p>(2) 教育大綱の見直しについて</p>
傍聴者	0 人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
鎌谷先生	<p>【城乾小学校】日本語適応支援教室</p> <p><視察の流れについて説明></p> <p><資料「日本語適応支援教室「にほんご教室」について」に基づき説明></p> <p><「にほんご教室」の視察>～終了</p>
藤井	はじめに、本日の視察に際し、担当の馬場先生とコーディネーターの横田先生から実際の教室の様子や感想などのお話を伺い、その後意見交換とさせていただきます。
馬場先生	「にほんご教室」の子どもたちは、保護者の就労の関係で急遽母国から来日することになったケースがほとんどで、日本の生活に不安や心配を抱えております。その中で、落ち着いて日本語の勉強ができるような環境づくりや本人の気持ちをどう向けていくのかが大きな課題です。最初は教室内では泣いたり反抗したり、勉強にはならないこともあります。外に連れ出して気をそらしたりしながらだんだんと学習のステージに乗せていくような工夫をして取り組んでいます。子どもたちが日本語を学ぶだけでなく、日本での生活の土台づくりにも役立つような教室でありたいと思っていますので、今後ともご協力をお願いいたします。
横田先生	4 月から「にほんご教室」のコーディネートを務めています。外国から来日し、自

	<p>分の居場所を最初から作れる子はいなく、大きなストレスを抱え学校生活の長い時間を過ごしていると感じます。よって「にほんご教室」では、日本語だけを教えるのではなく、子どもたちが成功体験を積み、自己肯定感が育まれる場所となるように努めております。そして、通常のクラスに移った後も、一日でも早く本人の良さが発揮できる環境を作っていきたいと思っています。</p>
藤井	<p>ありがとうございます。市長や委員の皆様の感想や質問などありましたらよろしくお願いします。</p>
松永市長	<p>本日はありがとうございました。「にほんご教室」での取組を視察させていただき、苦労も多分にあると思いますが、一人の児童に対して一人の先生が丁寧に教える、教育の原点でもある教室だと感じました。今後も、このような取組を私の方でも協力してまいりたいと思います。</p>
久保委員	<p>子どもの個々の状況や複雑な思いに配慮しながら、自己肯定感を育むことを最も重要なコンセプトとしている点に共感を得ました。「にほんご教室」から通常の学級に戻る際に、自分の居場所を感じられることが学校生活で最も重要だと考えますが、通常学級の担任との日々の連携において、困りごとや課題と感じていることがあれば教えていただきたいです。</p>
馬場先生	<p>通常学級の担任との直接の会話は、私どもの勤務時間の関係で難しいため、記録簿を活用して連携を図っています。記録簿には、授業の内容や問題点を記入し、担任から学級での様子を返してもらうようにしており、これだけでは解決しないような場合は、双方の時間を調整して報告し合っています。通常学級での居場所づくりが難しいのが現状ですが、そこでの友達づくりができれば、日本生活への順応、日本語の習得への近道だと思っています。</p>
末澤教育長	<p>長年この「にほんご教室」を実施している城乾小学校においては、外国籍の子を児童たちが温かく受け入れており、多文化共生の土壌が育っていると感じますが、その点についてはいかがですか。</p>
馬場先生	<p>城乾小学校の多文化共生への取組や、担任の先生方の受入れに対する姿勢、通常教室へ移行する際の中間的な場としての「こくさい教室」での支援など、非常に心強く思っています。一方で、子どもの成長には、学校だけでなく家庭の協力が不可欠であり、言葉の壁などがありますが、工夫しながら保護者と接点を持ち報告や協力を得るよう努めています。</p>
末澤教育長	<p>支援員の人材確保が、課題であると伺っていますがいかがですか。</p>

馬場先生	現在、本校の卒業生である外国籍の方が来てくれている例もあります。当時、自身は、「にほんご教室」のない環境で苦労した経験を持っており、その背景から外国籍の子どもや保護者への心情を理解しながら勉強の必要性を伝えてくれています。また通訳として保護者との橋渡し役となるなど非常に貴重な存在です。
藤井	<p>ほかにご質問等なければ、城乾小学校での視察を終わらせていただきます。</p> <p>【東中学校】こくさい教室 <「こくさい教室」の視察>～終了</p>
大西校長	本日はありがとうございました。外国にルーツを持つ生徒たちの学びや学校生活について、東中学校での取組や課題などの現状についてご説明させていただきます。
杉田先生	<資料 こくさい教室（9年目）の取り組みについて>に基づき説明>
末澤教育長	現在「こくさい教室」にいる日本語での会話が困難な生徒 12 名以外に、すでに通常教室へ移っている外国籍の生徒もいるということですね。
杉田先生	そうです。高校進学を希望する 3 年生の生徒は、日本語で受験する必要があるので通常学級で授業を受け、わからない箇所は、放課後質問をしたり直接先生に教えてもらっています。
末澤教育長	高校では日本語がわからない生徒を支援するようなところがありますか。
杉田先生	県内の高校においては現在ありませんが、丸亀市の通町にある「オアシス」で毎週金曜日に実施しているサポートに通っている生徒もいます。また、私立高校ではそういった生徒向けに、テスト対策のプリントや平仮名でのフォロー、追試の対応などをしているところもあると聞いているので、少しずつ理解は広まっている学校もあると思います。
立石委員	「こくさい教室」の開設時に、教室の配置や担当教諭の先進地への視察派遣などで携わってきました。当時よりも、日本語がゼロベースで来日する生徒が増えていると聞いているので、城乾小学校の「にほんご教室」と上手く連携を図る必要があると思います。
杉田先生	「にほんご教室」のほうも全体的に人数が増えており、定員の関係で受入不可能な状況があります。
久保委員	生徒の進路や学力保証へつながる学習言語の習得の前段で、まずは生活言語を一早

	<p>く身に付けることが重要ですので、日本での学びのファーストステップともなる、城乾小学校の「にほんご教室」の役割は大きく、とてもありがたく感じています。</p> <p>高校に進学した先輩たちの姿を見ている在校生が、自身も進学を希望するような雰囲気ができているのでしょうか。</p>
大西校長	<p>以前は高校進学が難しいとか、進路が限られていた傾向にありましたが、最近は進学率が上がっており、生徒の可能性が広がっています。また、大学進学や資格取得を目指した事例もあり、高校進学後も努力することで夢への道が開けていると考えます。</p>
久保委員	<p>そこには本人はもちろんですが、やはり言語に対する学校側の長年の取組も成果として現れており、その流れの中で生徒なりのモチベーションの高まりにもつながっていると感じます。</p>
杉田先生	<p>日本語と母国語の二カ国語が話せることで視野も広がっていると感じますし、生徒自身が、勉強の必要性を認識しているため、わからないところを教えて欲しいとやってきます。</p>
大西校長	<p>本校では、受験を控えた3年生に対して、部活動のような感覚で放課後や長期休業中の補充学習を長年実施しています。その中で、成績や試験などの現実的な話と励ましの声かけを交えながら生徒のモチベーションを高めており、その中心的役割を杉田先生がコーディネーターを兼ねて担っているという状況です。</p>
久保委員	<p>生徒たちの未来を切り開く、重要な教育の分野に携わっておられると改めて感じました。保護者の方たちへはいかがでしょうか。</p>
杉田先生	<p>外国籍の保護者は、日本の高校進学の制度や費用について、なかなか理解が十分でない場合があるので、必要な費用などの説明をし、保護者の理解を得るよう努めています。</p>
井下委員	<p>外国からここに来た子どもたちは、本人にとっては数々の困りごとはあると思いますが、日本での生活の一助となっているこの教室はありがたいと思いました。</p>
松岡委員	<p>違う学校の外国籍の中学生で、学校に行けない生徒に私も携わったことがあります。理由は、勉強がわからないから面白くないということでした。この「こくさい教室」での授業が本人の進路につながっていることは、非常に重要な役目を果たしていると感じました。</p>
立石委員	<p>以前は外国籍の子どもたちへの学習支援がなく、不登校率が高い傾向にありましたが、市が「こくさい教室」を設けていただいたことで、子どもたちの将来が見えるよ</p>

	うになったと思います。長いスパンではありますが、城乾小学校の「にほんご教室」とあわせて一歩ずつ成長していると感じます。市やオアシス通町での取組など、今後も支援を続けていただきたいと思います。
松永市長	城乾小学校の「にほんご教室」での指導の先生が増えれば、それだけ児童生徒の受け入れ体制が拡充でき、「こくさい教室」としても助かるということがよくわかりました。支援員を確保することが課題だと感じました。
大西校長	<p>本校の取組みについて、引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。</p> <p><視察終了></p>
真鍋課長	ただ今から令和7年度第2回丸亀市総合教育会議を開会します。本日の協議事項は、午前中の視察に引き続きまして、議題（2）「教育大綱の見直し案について」です。会議の進行につきましては市長の方からよろしくお願いします。
松永市長	<p>本日はお忙しい中、丸亀市総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。午前中の学校視察につきましてもありがとうございました。</p> <p>議題の前に少し、市政のご報告をさせていただきます。先般、国土交通省と財務省へ要望活動に行っていました。橋梁や道路の関係ではありますが、やはり小学生や中高生の通学路となる箇所の交通安全を確保するための予算化について要望しております。その他にも、大手町4街区の整備や塩飽諸島の魅力発信などについても説明してまいりました。</p> <p>それでは、教育大綱の見直し案について、事務局より説明をお願いします。</p>
藤井	<資料に基づき説明>
松永市長	まず、本市の総合計画は、市長選挙の年に見直しを図り、次期総合計画を策定する流れとしており、現在、第二次総合計画の後期基本計画が今年度で終了します。それに伴い、次期8年間の第三次総合計画について策定中でありまして、市民が手に取り、理解しやすい計画にすることを目指しているところです。また、教育大綱とも関連づけて進めたいと考えており、両方の完成時期が今年度末を予定しています。そこで、説明にもありましたように、本市の将来像に「イキイキ」という言葉を掲げ、人がイキイキとした元気なまちづくりを進めたいという思いから、この教育大綱の理念のところに記入しております。
末澤教育長	これまでの「豊かな」という言葉は包摂した表現ですが、市長が考えられている「イ

	<p>キイキとした」という言葉の背景やイメージを伺い、教育大綱の理念に適切か検討したい。</p>
松永市長	<p>四国地域では急速な人口減少が進んでおり、今後さらに丸亀市でも減少が加速する見込みです。各自治体が子育て支援などに予算を投じていますが、人口減少の流れは止められず、その最大の要因は、都市部に出た若者、特に女性が地元に戻らないことです。そこで私は、「若者が夢を持てる街づくり」を目指したいと考えております。大学進学や就職で都市に出て、「丸亀は魅力的で面白い街」と感じてもらえるよう、将来に希望を持ち、挑戦できるような活気ある街づくりを進めていきたい、そうすることで子どもから大人まで、自分らしく輝き、活躍できるというイメージを表現したいと考えております。</p>
末澤教育長	<p>「青春とは人生のある時期ではなく、心の持ちようである」という年配の方から聞いた言葉に共感しました。市長の言葉を受けて、「豊かさ」にはさまざまな意味がありますが、教育大綱は子どもだけでなく生涯学習も含んでいますので、年齢を問わず自分の人生を「イキイキと」過ごすという姿勢を示す言葉として良いと思います。</p>
久保委員	<p>市長の言葉から、市民に生きがいややりがいを感じてもらいたいという思いが十分に伝わってきました。そのイメージを言葉で表すなら、「イキイキと」という表現が非常に適切だと感じます。</p>
立石委員	<p>市長の意図やその背景にある思いを知ると、丸亀の象徴としてふさわしい言葉だと理解できました。市民にもこの思いをしっかりと伝えることで、共感が広がっていくと思います。全国的な住みやすいまちランキングに入ったり、日本有数の造船会社の関連企業が丸亀市に多くあることなどは大きな強みです。市内の中学2年生が職場体験を通じて地元企業の魅力を知り、丸亀の良さを感じる取組も進んでいますので、こうした地道な活動を積み重ね、さらに魅力あるまちづくりや若者の流出抑制につながることを期待します。</p>
松岡委員	<p>「イキイキと」は、活力あるまちやエネルギッシュな人々を連想させ、目指す姿が伝わると思いました。</p>
井下委員	<p>カタカナで表現された理由は何かありますか。</p>
松永市長	<p>普段私が考えている方針や意見を取り入れた次期総合計画を策定中であることを踏まえ、教育大綱とも整合性を図り、双方でこの「イキイキと」を強調したいという意図です。</p>
真鍋課長	<p>総合計画の策定過程において、市の将来像に「イキイキと」という言葉を入れる際</p>

	<p>の検討段階で、カタカナ表記が最も印象的であると判断し使用することにしました。</p>
久保委員	<p>言葉に躍動感とエネルギーを感じます。</p>
末澤教育長	<p>基本理念のところで「まちづくりの主役」という言葉を使用した表現を工夫できたらいいと考えています。生涯学習を含めた視点で考えると、未来のまちづくりの主役は子どもたちに焦点が当たっていると感じます。近年、コミュニティの会長をはじめ、地域の大人たちの子どもに対する見方が変わってきています。地域イベントでも、これまで「お客さん」として招いていた子どもたちを、司会や進行を任せるなど、まちづくりの主役として位置づける取り組みが進んでいます。その結果、子どもたちが主体的に活動し、仲間同士で協力し合う姿が見られ、イベント全体が活性化しました。</p> <p>こうした流れから「まちづくりの主役」という表現は、好ましいと感じています。</p>
久保委員	<p>前回私が提案させていただいた基本目標Ⅱの「教育環境の整備」が生涯学習やスポーツなどすべてにかかる環境の下支えにならないかという点について、それに紐づく「施策の方向性」からすると、子どもの教育に係る部分の環境の整備であると説明いただき、また、市長の教育施設の整備に注力していると述べられた点も含めて、理解しました。</p>
立石委員	<p>「人づくり石垣プロジェクト」について、時間をかけてじっくり取り組む必要があると思いますが、毎年度予算を確保いただき、学校や子どもたちのための様々な取組に非常に感謝しています。教育には多くの人の関わりが不可欠で、先生や指導員などより多くの方が関わることで、子どもたちの学びや生活は安定します。「にほんご教室」のような外国籍の子どもたちへの対応も含め、今後も引き続き人材確保についてもよろしく願いいたします。</p>
末澤教育長	<p>施策の方向性のところで出てくる「対話力」という言葉について、「コミュニケーション能力を育むことが大切」という前回の総合教育会議での意見を反映し、会話がで きる力という意味合いが示されました。自分の思いや考えを言葉でしっかり伝える力は非常に大切で、教育委員会としても「会話」という概念を重視し、言語活動や言語の重要性を高めていこうと考えており、す。</p> <p>コミュニケーションには様々なツールがありますが、その中でもこれからの社会を担う子どもたちにとって対話力は非常に重要です。社会全体においても必要な力だと考えますので「コミュニケーション能力」という表現もありますが、「対話力」というほうがより適切であると感じました。ただ「対話力」という表現は、一般的に使用するものかわかりませんが、相手を尊重する姿勢を含む意味でも「対話を大切にする」といった表現でも良いと思いました。</p>
松岡委員	<p>「対話力」という言葉は、スキルも備わっているようなニュアンスが伝わります。</p>

久保委員	<p>「対話力」とは、話す・聞くの両方を駆使し、相手との間に共有の理解を築き上げる能力のことを指す一般化された言葉のようですのでふさわしいと思います。</p> <p>施策の方向性の【子どもの教育】の3項目目について、主権者教育をこの項目に入れ、また書き以降が浮き立つように感じますので、繋がりや内容の整合性について検討が必要であると思います。</p> <p>それと、16項目目の中段に「豊かな感性や想像力などの非認知能力を育む」とありますが、非認知能力の概念は、一般的には「意欲」「協調性」「自制心」「やり抜く力」などを指すと思います。そのため、「豊かな感性」「想像力」が非認知能力の例示であるような表現は適切ではないと感じます。むしろ、文化芸術活動の本質的な目的は、「豊かな感受性」や「人間性」を育み、潤いのあるライフスタイルを創造することだと思います。したがって、ここであえて「非認知能力」という言葉を使う必要があるのか再検討をお願いしたいと考えます。</p>
真鍋課長	<p>ご指摘いただいた箇所については、担当課とも協議しながら修正を検討させていただきます。</p>
末澤教育長	<p>非認知能力を掲げるのであれば、もっと上の基本理念とか大きなところで全てを包摂するような表現で使用するのがふさわしいと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
井下委員	<p>「幼保こ連携」とありますが、一般的にはわかりにくい表現だと思います。</p>
真鍋課長	<p>幼稚園保育所こども園と明記するようにします。</p>
松永市長	<p>最後の「丸亀市の教育大綱について」のところは何かご意見ありませんか。ここに載せている文章の意図を事務局からお願いします。</p>
藤井	<p>教育大綱の策定の必要性や改定の経緯、あわせて市長のメッセージを記載しています。</p>
立石委員	<p>第三次総合計画策定作業の中で、時代の変化は非常に速く、4年ないしは8年の計画期間において、子どもたちに今後必要となる力や取組など、具体的な予測や新しい情報があれば教えていただきたいと思います。</p>
真鍋課長	<p>具体的な将来像や確定的な情報は現時点ではないですが、一般的に想像されるITやAIの進展といったテーマは引き続きあります。ただ、時代の急速な変化により、総合計画に将来を予測した細かい内容を書き込むことが難しく、柔軟に対応していく必要があると感じています。</p>

久保委員	最後のページの「丸亀市教育大綱について」は、説明の文章と市民に向けたメッセージが混在しているので、整理して表現の統一を検討していただきたいです。
真鍋課長	こちらについても、見直して修正します。
松永市長	その他について、委員の皆様や事務局でご意見や報告事項がありましたらお願いします。
教育長	本日「にほんご教室」を視察いただきありがとうございました。子どもたちへは、個性や性格も一人一人違うところに、より丁寧に向き合うことが大切になってきております。「人づくり石垣プロジェクト」への予算措置や人材確保など、感謝申し上げるとともに、引き続き教育現場へのご理解をいただけますよう改めてお願い申し上げます。
松永市長	ほかに質問等なければ、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。
(会議終了)	